

幼保小の連携に即した授業の考察

——小学校音楽科教育をにらんで——

A Study of Tuition from Relation between Kindergarten, Nursery and Elementary school
—— *A Difference of Students' Music Consciousness* ——

星野 英五 *Eigo Hoshino*

(人間発達学部)

I. 動機

人間発達学部子ども発達学科は、2010 年度に完成年度を迎え 2 年目が経過している。本学部は、他大学同系列の学部にはない芸術的環境のもとで高い音楽意識を備えた学生を養成することを目的としている中で、小学校教諭免許を取得希望の学生の殆どが幼稚園教諭や保育士資格を同時に取得希望している。

「子どもの発達を踏まえて乳幼児期から児童期にかけての教育を理解する」という幼保小連携の相互理解に、音楽活動は大きな存在を示しており欠くことができない。例えば、「歩く・走る・スキップ」といった行動は音楽的行動に結びつけやすく、子どもの発達に大きな意味をもつと考える。これらを含めた音楽教育は教師・保育者の指導技術や姿勢によって、教育・保育の場で音楽を嫌う子どもを生み出してしまうことがあり得るので、子どもの対象理解や保育・教育の本質・目的に関する科目の学習も併せて重要であることを学生に認識させたい。

小学校音楽科指導法を受講する学生の内、高校時代に音楽の授業を選択したと回答した学生は、高校の選択科目から近年「音楽」が大幅に減らされている現状もあり 54%に留まる。

このように、高校時代の音楽授業経験に空白のある学生が半数近くいる中で、学生自身が音楽活動を楽しむことは難しい。幅広い年齢層の子どもの音楽活動を系統立てて導入することは保育・教育系学生に重要なことである。大学の授業で学生自身が音楽を楽しむことが、子どもに音楽活動を系統立てて行えることにつながると考える。そこで、学生の幼少時の音楽の記憶をたどることで音楽活動をすることの意識を高めたいと考える。

今までの研究から、本学部学生は旧短期大学部保育科学生と比較して、保育教育の理論と実践の密接な関係を把握しにくく、特に四年制 1 年次では実践をまだまだ遠い存在に捉えていることが分かる (星野, 2009)。また、保育者 (幼・保) にとっては音楽が重要な役割を持っていることを理解しているが小学校教諭希望の学生は保育者希望の学生と比較して音楽を軽視することが分かる (2011)。

本研究は、幼稚園教育要領と保育所保育指針の音楽リズムや表現活動領域と小学校学習指導要領音楽の共通項目に着目し、音楽の指導技術や姿勢に優れた学生を養成することに

役立てる。複数免許資格取得を希望する学生が幼稚園・保育所と小学校の音楽をどのよう
に捉えているのか比較検討し、今後の音楽科指導法の授業展開を考えていくものである。

Ⅱ. 研究方法

対象；2011年度人間発達学部子ども発達学科音楽科指導法履修学生3年生48名
(男25名・女23名)

回収率；88.3%

時期；2011年11月

方法；一斉による質問紙調査

Ⅲ. 結果と考察

1. 免許・資格の取得希望

幼稚園教諭免許43名(89.6%) 保育士資格38名(79.2%) 小学校教諭免許48名
(100%)

2. 音楽活動の記憶

表1 幼稚園・保育所・小学校の音楽活動(授業)の記憶

	非常に好き	好き	嫌い	非常に嫌い
幼稚園・保育所時代	20名(41.7%)	24名(50%)	3名(6.3%)	1名(2.1%)
小学校低学年時代(1・2年)	22名(45.8%)	21名(43.8%)	4名(8.3%)	1名(2.1%)
小学校中学年時代(3・4年)	25名(52.1%)	19名(39.6%)	3名(6.3%)	1名(2.1%)
小学校高学年時代(5・6年)	27名(56.3%)	16名(33.3%)	4名(8.3%)	1名(2.1%)

表1は、学生の幼保・小学校時代の音楽活動の記憶を4段階評定で、表したものである。「幼稚園・保育所時代」と「小学校高学年(5・6年)」において「非常に好き」に差がみられる($p < 0.5$)。

しかし、「非常に好き」と「好き」を合わせると各時代とも43名・44名と全体の約90%が音楽活動により記憶を持っている学生が多いことが分かる。

小学校時代ではリコーダーや合唱や器楽合奏、幼稚園保育所時代では歌やピアノカクの活動内容が記憶に影響している記述が多くみられる。

幼稚園教育要領においては、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い創造性を豊かにする」という目標があげられている。その方法はそれぞれの園の方針に委ねられており、幼稚園・保育所時代に毎日歌う生活の歌や発表会など、様々な取り組みがされている。

小学校の音楽教育においては、「音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てる」とともに、音楽科教育として、「音楽活動の基礎的な能力を培い豊かな感性を養う」ことが教科の目標とされている。教科としての音楽活動に結びつけることができる幼稚園・保育

所の音楽活動のあり方を学生とともに工夫したい。例えば「うた」を元気よく大声で歌うだけでなく情景や心情をも保育者が幼児期の子どもにいていねいに言葉で伝えようとするところが、豊かな感性を養うことにつながるのではないだろうか。

3. 大学の授業について

表2 大学の授業に期待するもの

項 目	保育者(幼・保)	教育者(小学校)
①子どもに合わせて伴奏できる(ピアノ・エレクトーン)	37名(77.0%)	> 12名(25.0%)
②タン布林や色々なリズム楽器を扱う	28名(58.3%)	29名(60.4%)
③音程やリズムに気をつけて歌う	24名(50.0%)	28名(58.3%)
④わらべ歌で遊ぶ	32名(66.7%)	> 13名(27.1%)
⑤歌詞の内容や曲想を味わい表現工夫をし歌う	14名(29.2%)	< 23名(47.9%)
⑥幅広く主体的に音楽鑑賞をする	10名(20.8%)	< 19名(39.6%)
⑦絵本や詩にメロディーをつける	13名(27.1%)	11名(22.9%)
⑧音楽理論が分かる	7名(14.6%)	11名(22.9%)

表2は、大学の授業に期待するものについて、4段階評定の内『非常にそう思う』と回答したものを保育者(幼・保)と教育者(小学校)に分けてまとめたものである。

「①子どもに合わせて伴奏する(ピアノ・エレクトーン)」「④わらべ歌で遊ぶ」が保育者(幼・保)で期待度が高く(ps.<0.1)、「⑤歌詞の内容や曲想を味わい表現工夫をし歌う」「⑥幅広く主体的に音楽鑑賞をする」が教育者(小学校)で期待度が高い(ps.<0.1)。

また両者とも「②タン布林や色々なリズム楽器を扱う」と「③音程やリズムに気をつけて歌う」で期待度が高い。

保育者(幼・保)では基礎的な音楽技能や日本の伝統音楽で子どもと遊ぶことを重視し、教育者(小学校)では表現を工夫したり音楽活動の出発点である鑑賞を重視している。

保育者(幼・保)において表上段の「①子どもに合わせて伴奏ができる(ピアノ・エレクトーン)」「②タン布林や色々なリズム楽器を扱う」「③音程やリズムに気をつけて歌う」「④わらべ歌で遊ぶ」と、表下段の「⑤歌詞の内容や曲想を味わい表現工夫をし歌う」「⑥幅広く主体的に音楽鑑賞をする」「⑦絵本や詩にメロディーをつける」「⑧音楽理論が分かる」の期待度に差がある(ps.<0.1)。

教育者(小学校)において「①子どもに合わせて伴奏ができる(ピアノ・エレクトーン)」の期待度が低いことは残念である。小学校音楽科授業で伴奏する機会が少ないであろうと想像している学生が多いのであろうか。子どもの創造性を引き出すには音楽の基礎知識も大切である。従って、大学の授業で鍵盤楽器を習得する中で基礎知識を学ぶ姿勢が求められる。

3. 音楽的保育・教育観について〔①～⑦基本的・⑧～⑮配慮的〕

表3 音楽的保育・教育観

項 目	保育者(幼・保)	教育者(小学校)
①音楽的リズム活動は子どもの心身の発達大きく影響する	34名(70.8%)	> 25名(52.1%)
②楽しく音楽にかかわり音楽に興味関心を持たせる	31名(64.6%)	29名(60.4%)
③音楽環境が子どもの心理状態に影響する	28名(58.3%)	22名(45.8%)
④子どもの生活の中よく耳にする音や音楽の関り大切に	35名(72.9%)	> 28名(58.3%)
⑤合奏指導は幼児期に体験させるようにする	15名(31.2%)	19名(39.6%)
⑥楽しさ活発さ静かさ優美さ等曲の感じが分るようにする	13名(27.1%)	< 27名(56.3%)
⑦わらべ歌は日常的にとり入れようとする	31名(64.4%)	> 21名(43.8%)
⑧歩く走るスキップ等リズムカルな動きを楽しむ	30名(62.5%)	> 21名(43.8%)
⑨音楽発表会は日常的な活動からむすびつける	23名(47.9%)	23名(47.9%)
⑩おだやかなメロディーは優しさ思いやりをはぐくむ	24名(50.0%)	20名(41.7%)
⑪自分で感じた事をそのまま動きのリズムで表現する	25名(52.1%)	> 18名(37.5%)
⑫歌の歌詞に表す情景や気持ちを想像することができる	14名(29.2%)	< 26名(54.2%)
⑬鑑賞曲は時間の短いもの、子どもの分り易いものを選ぶ	26名(54.2%)	> 13名(27.1%)
⑭CDなどの音響機器は音質のよいものを選ぶ	17名(35.4%)	18名(37.5%)
⑮ピアノなどのおけいこごとは幼児期からとり入れるようにする	14名(29.2%)	15名(31.2%)

表3は、音楽的保育・教育観について、4段階評定の内『非常にそう思う』と回答したものを保育者(幼・保)と教育者(小学校)に分けてまとめたものである。

基本的事項では「①音楽的リズム活動は子どもの心身の発達大きく影響する」「④子どもの生活の中よく耳にする音や音楽の関り大切に」「⑦わらべ歌は日常的にとり入れようとする」で保育者(幼・保)が教育者(小学校)より比率が高く($p < 0.05$)、「⑥楽しさ活発さ静かさ優美さ等曲の感じが分るようにする」では教育者(小学校)が高い($p < 0.01$)。

配慮的事項では「⑧歩く走るスキップ等リズムカルな動きを楽しむ」「⑪自分で感じた事をそのまま動きのリズムで表現する」「⑬鑑賞曲は時間の短いもの、子どもの分り易いものを選ぶ」で保育者(幼・保)が教育者(小学校)より高く($p < 0.05$)、「⑫歌の歌詞に表す情景や気持ちを想像することができる」では教育者(小学校)が高い($p < 0.01$)。

保育者(幼・保)は、表現力や思考力の芽生えを期待して発達面との関連や音楽との関連といった基本的な項目を重視する意識があるが、より高度な情操面を育成するまでには至らない。

教育者(小学校)では、曲の感じ方や情景や気持ちを想像するという、音を素材として思考する音楽的思考を求める優美さや情景を想像するという意識が高いが、子どもが生

活の中での感じた音や音楽の関わり方については、学生は大切に考えていない。

日本古来のわらべ歌を日常的に取り入れる意識が保育者と比較して低いのは、小学校音楽科教育歌唱共通教材が文部省唱歌に偏っているのも一因かと考えられる。

4. 音楽的保育者（幼保）・教育者観（小学校）〔①～⑧資質・⑨～⑯技能〕

表4 音楽的保育者・教育者観

項目	保育者(幼・保)	教育者(小学校)
①子どもの発達に合った音楽指導ができる	38名(79.2%)	> 30名(62.5%)
②音楽が好きである	33名(68.8%)	27名(56.3%)
③音楽指導の中で個々の子どもの音楽的能力を把握できる	29名(60.4%)	26名(54.2%)
④子どもの気持を読み取り音楽活動に結びつけることができる	27名(56.3%)	24名(50.0%)
⑤生活の中にある音に耳を傾け音を探し音の面白さ気付く	28名(58.3%)	> 21名(43.8%)
⑥創造的に音楽に関わり音楽活動に意欲がある	23名(47.9%)	21名(43.8%)
⑦音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を持っている	22名(45.8%)	22名(45.8%)
⑧音楽の要素や構造と曲想の関わりを感じ取り説明	20名(41.7%)	23名(47.9%)
⑨子どもに合わせて伴奏ができる(ピアノ・エレクトーン)	32名(66.7%)	30名(62.5%)
⑩音楽に合わせて体を動かすことができる	33名(68.8%)	28名(58.3%)
⑪歌える歌のレパートリーが多い	33名(68.8%)	28名(58.3%)
⑫リズム感がよい	35名(72.9%)	> 26名(54.2%)
⑬手・指遊びの創作やアレンジができる	34名(70.1%)	> 17名(35.4%)
⑭手・指遊びが上手である	30名(62.5%)	> 16名(33.3%)
⑮鍵盤楽器以外(ピアノ・エレクトーン)の楽器ができる	19名(39.6%)	17名(35.4%)
⑯響きのあるきれいな声である	13名(27.1%)	17名(35.4%)

表4は音楽的保育者・教育者観について、4段階評定の内『非常にそう思う』と回答したものを保育者(幼・保)と教育者(小学校)に分けてまとめたものである。

資質では「①子どもの発達に合った音楽指導ができる」「⑤生活の中にある音に耳を傾け音を探し音の面白さ気付く」で保育者(幼・保)が教育者(小学校)より高い(ps.<0.1)。

技能では「⑫リズム感がよい」「⑬手・指遊びの創作やアレンジができる」「⑭手・指遊びが上手である」で保育者(幼・保)が高い(ps.<0.1)。

保育者(幼・保)において「⑨子どもに合わせて伴奏ができる(ピアノ・エレクトーンで)」「⑩音楽に合わせて体を動かすことができる」「⑪歌える歌のレパートリーが多い」「⑫リズム感がよい」「⑬手・指遊びの創作やアレンジができる」「⑭手・指遊びが上手である」と「⑮鍵盤楽器以外(ピアノ・エレクトーンで)の楽器ができる」「⑯響きのあるきれいな声である」

な声である」に差があり (ps.<0.1)、小学校では「⑨子どもに合わせて伴奏ができる(ピアノ・エレクトーンで)」[⑩音楽に合わせて体を動かすことができる][⑪歌える歌のレパートリーが多い][⑫リズム感がよい]と「⑬手・指遊びの創作やアレンジができる」「⑭手・指遊びが上手である」「⑮鍵盤楽器以外(ピアノ・エレクトーンで)の楽器ができる」「⑯響きのあるきれいな声である」で差がある (ps.<0.1)。

資質では具体的な質問項目である子どもの発達や生活の中の音に関することは保育者(幼・保)で重視しているが、音楽教育上基本的な項目の差は殆どみられない。しかし、小学校音楽科改定の趣旨の重要な部分である創作活動に関する音の面白さに気付くことの意識が低いのは、指導要領解説の学習が深まっていない結果が出ている。

技能では乳幼児保育に即必要と考えられる事項を重視している。全体的に保育者(幼・保)が資質・技能とも重んじている。学生自らの幼少時の音楽経験の記憶をたどり、小学校音楽教育が主要教科では成し得にくい協調性や達成感、さらには根気強さを培うことができ、創造性を育むことができる教科であることを思い出させ認識させたい。また、理論ばかりでなく、創造性を表現するための、音楽技能を高めることも大切なことである。

IV. まとめと今後の課題

音楽が子ども同士、子どもたちと保育者・教員、さらには保護者を巻き込んだ集団づくりとして機能している園や学校は、音楽活動こそが保育・教育現場の要であると言える。また、音楽はただ楽しいものだけでなく、音による創造活動と捉えたい。

乳幼児期は遊びの中で感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現力を養う。その延長上の児童期においては、音楽と生活の関わりに興味・関心を持って、創作活動に進化させることが必要である。

幼稚園・保育所の領域は小学校の教科とは考え方が異なるが、その対象となる子どもの発達の道筋は同一なものである。幼稚園・保育所の年長児の音楽活動から小学校音楽科の音楽教育への円滑な移行は、幼保小連携のために重要なことである。幼児期の学びのあり方を把握するとともに、幼児期の音楽活動と児童期の学びに対する見通しを持つことで小学校音楽教育が成り立つことは明らかであり、乳幼児期の思考力や表現力の芽生えが児童期の学びの原点になっている。

平成元年3月に告示、平成2年4月に施行された幼稚園教育要領以前の「音楽リズム」の内容をみても、現小学校教育要領音楽科と共通する項目が多いのは事実である。

今回の結果から、学生は小学校ではより奥深く音楽的に高度な項目を重視し、幼稚園・保育所では即役立つ技術的な項目を重視している。

音楽科教育は、技能の習得だけでなく、人間関係の構築を築く一環を担うことも考えられる。音楽教育は技能の習得だけでなく、学習活動を個別化させる主要教科とは異なる。このことを踏まえ、子どもたちと音楽活動が共有できる教育・保育者を育てたい。さらに、

人と人との関りを大切にして子どもたちと楽しく音楽活動の経験を共有できる教育・保育であることが望ましいと考える。

幼稚園・保育所の領域「表現」「言葉」が、小学校音楽科教育につながっている。

大学の音楽関連授業においても、『幼稚園・保育所の領域「表現」「言葉』から発展させ、子どもの発達連続性に基づいた保育・教育の音楽を学生に分かりやすく学習させる音楽科指導法の授業の工夫が必要である。

引用文献

星野英五 2009 「本学学生の音楽意識—短期大学と四年制大学の比較から—」
名古屋芸術大学研究紀要第30巻 pp.393-398

星野英五 2011 「幼保小の連携に即した授業の考察
—保育者希望と小学校教諭希望の音楽意識の違いから—」
名古屋芸術大学研究紀要第32巻 pp.311-317

星野英五 2012 「学生の音楽意識 I —保育者と小学校教諭との関わりから—」
日本保育学会第63回発表論文集 p.546

追記：本稿は、日本保育学会第65回大会発表論文集「学生の音楽意識—保育者希望と小学校教諭希望の関わりから—」を転載・改稿したものである。

質問紙

I. あなたの免許・資格取得と就職について

①あなたはどの資格・免許を取得しますか。あてはまるものを選んで右欄の数字にいくつでも○をつけて下さい。

1. 幼稚園教諭免許 2. 保育士資格 3. 小学校教諭免許

②あなたの就職希望は、現在、どれにあてはまりますか。右欄の数字に○をつけて下さい。

1. 幼稚園 2. 保育所(園) 3. 小学校 4. 施設関係 5. その他

II. 小学校時代の音楽授業の思い出について

①小学校の音楽の授業は、あなたにとってどんな存在でしたか。4「他の授業より好きである」、3「どちらかといえば好きである」、2「嫌いである」、1「非常に嫌いである」の中から一つ○をつけて下さい。

1・2年生の時 3・4年生の時 5・6年生の時

②音楽の授業の何が得意でしたか？

③音楽の授業の何が苦手でしたか？

III. 幼稚園・保育園時代の音楽活動の思い出について

①幼稚園・保育園時代の音楽活動は、あなたにとってどんな存在でしたか。4「非常に好きである」、3「どちらかといえば好きである」、2「嫌いである」、1「非常に嫌いである」の中から一つ○をつけて下さい。

②音楽活動の何が得意でしたか？

③音楽活動の何が苦手でしたか？

IV. 高校時代の音楽の授業について

①音楽の授業を選択していましたか。1.「はい」2.「いいえ」の中から一つ○をつけてください。

V. 教育者・保育者養成の授業について

教育者・保育者にとって音楽活動をする上で、以下の項目をどの程度重視した方がよいと思いますか。

4「非常に重要だと思う」、3「やや重要だと思う」、2「あまり重要だと思わない」、1「全く重要だと思わない」の中から保育者(幼・保)教育者(小学校)に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| (1)子どもに合わせて伴奏できる | (2)音程やリズムに気をつけて歌える |
| (3)歌詞の内容や曲想を味わい表現工夫をし歌える | (4)幅広く主体的に音楽鑑賞をする |
| (5)わらべ歌で遊ぶ | (6)音楽理論が分かる |
| (7)タンブリンや色々なリズム楽器を扱う | (8)絵本や詩にメロディーをつけることができる |

VI. 教育・保育について

あなたの考えている教育・保育に、次の項目はどの程度あてはまると思いますか。または必要だと思いますか。

4「非常に思う」、3「やや思う」、2「あまり思わない」、1「全く思わない」の中から保育者(幼・保)教育者(小学校)に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

- (1)音楽的リズム活動は子どもの心身の発達に大きく影響する
- (2)楽しく音楽にかかわり音楽に興味・関心を持たせる
- (3)音楽環境が子どもの心理状態に影響する
- (4)自分で感じ考えた事をそのまま動きのリズムで表現する
- (5)おだやかなメロディーは優しさや思いやりをはぐくむ
- (6)わらべ歌遊びは、日常的にとり入れるようにする
- (7)合奏指導は、幼児期に体験させるようにする

- (8) ピアノなどのおけいごとは幼児期からとり入れるようにする
- (9) 鑑賞曲は、時間の短いもの、子どもに分かり易いものを選ぶ
- (10) 歌の歌詞に表す情景や気持ちを想像することができるようにする
- (11) 音楽発表会は、日常的な活動からむすびつける
- (12) 歩く走るスキップなどリズムミカルな動きを楽しむ
- (13) 子どもの生活の中でよく耳にする音や音楽の関わりを大切にする
- (14) CDなどの音響機器は音質のよいものを選ぶ
- (15) 楽しさ活発さ静かさ優美さなど曲の感じが分かるようにする

Ⅶ. 保育所・幼稚園・小学校の先生のあり方について

あなたは、保育所・幼稚園・小学校の先生として、次の項目はどの必要であると思いますか。

4 「非常に重要だと思う」、3 「やや重要だと思う」、2 「あまり重要だと思わない」、1 「全く重要だと思わない」の中から教育者（小学校）・保育者（幼・保）に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

- (1) 音楽が好きである
- (2) 生活の中にある音に耳を傾け音を探し音の面白さに気付く
- (3) 創造的に音楽に関わり音楽活動に意欲がある
- (4) 子どもの気持ちを読み取り音楽活動に結びつけることができる
- (5) 音楽指導の中で個々の子どもの音楽的能力を把握できる
- (6) 音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を持っている
- (7) 子どもの発達に合った音楽指導ができる
- (8) 音楽の要素や構造と曲想の関わりを感じ取り言葉で説明できる
- (9) 歌える歌のレパートリーが多い
- (10) 響きのあるきれいな声である
- (11) 鍵盤楽器（ピアノ・エレクトーン）以外の楽器ができる
- (12) 手・指遊びの創作やアレンジができる
- (13) 手・指遊びが上手である
- (14) リズム感がよい
- (15) 子どもに合わせて伴奏ができる（ピアノ・エレクトーンで）
- (16) 音楽に合わせて体を動かすことができる

どうもありがとうございました。